

北緯40度

・そぞろある記



心ふれあう交流の輪

奉仕の心と思いやりの心を育てることをねらいに鳥茂渡小学校(荒谷栄子校長、児童8人)の「あったか交流会」が7月13日、特別養護老人ホーム「うねとり荘」(大上重信施設長、入所者60人)で開かれ、児童らはお手伝いなどをして、お年寄りの皆さんとあったかい心のふれあいをしました。

交流会で児童らは8人の自己紹介をした後、運動会などで発表している一輪車乗りを披露。(写真)軽快なリズムに合わせて次々と曲芸を繰り出すと、会場から「うまい、うまい」「お～お」と歓声が上がっていました。入所者の新屋セイさん(85)＝白井＝は「本当によぐ習いましたごどー」と笑顔で拍手を送っていました。



そばの種まきに“汗”

村教委主催の「地球村普代っ子学園」は7月27日、村内4小学校の児童ら29人が参加し、そばの種まきと普代ダム探検を行いました。講師は同地区の山崎伍助さん(85)、妻のハナさん(82)、野場ミツエさん(82)の3人。児童らは額に汗しながら約200平方メートルの畑にそばの種をまきました。(写真)15年以上講師を務める山崎さんは「土に親しんで、物を育てる気持ちをもってほしいです」と話していました。午後から児童らは普代ダムを見学しました。

みこし担ぎ大漁祈願

大漁を祈願する「くろさきまつり」が7月29日に行われ、「宇賀八坂神社」のみこしと、鮭の絵をあしらった子どもみこしが地区内を練り歩きました。

青い半天をまとった子どもたちは「そ～れ、わっしょい、わっしょい」と威勢のいい掛け声を響かせると、地区の方々も沿道に詰め掛け、神社のみこしに手を合わせ願掛けをしたり、子どもみこしを見送る姿もありました。(写真)

まつりはみこしのほか、もちまきや公民館で祝賀会なども行われ、地区をあげて祝いました。

